

## 6-c インターネット

現時点で、最も容易に、最も多くの情報を入手できるであろう情報源がインターネットです。ただし、その膨大な情報は玉石混交、多岐亡羊。一歩間違えると、とんでもない誤情報や捏造による情報をつかまされることにもなりかねません。また、情報のコピーが容易に可能なことから、次々と情報のコピーが繰り返されるうちに、情報理論そのままのエントロピーの増大、つまり、「話」に尾ひれがついた状態になっていることも多々あり、情報の真偽を見きわめにくいケースも少なくありません。

とはいえ、そういったリスクさえしっかりと認識していれば、これほど便利な情報源はありません。大いに活用したいところです。

\*

インターネットを利用してフネの情報を入手したいと考えるならば、英語に対する苦手意識をまず捨てましょう。英語で書かれたWEBサイトの内容をすべてを理解する必要はありません。英語のWEBサイトに対してなんとなく苦手意識があり、WEBサイトを開きたくない、といった意識があるならば、それをなくしましょう、というだけの話です。

国際的なシェアを持つボートビルダーのほとんどは、世界各国からそこにアクセスしてくるであろう方々のために、必ず（と書いていいでしょう）、英語でもそのWEBサイトを表示できるようにしています。前述したように、英語が苦手な人もいたとは思いますが、ものは考えようです。たとえば、英語とスウェーデン語なら、まだ英語の方が分かる部分もあるでしょう。それに、最近のWEBサイトは写真や図版を豊富に使うものが多くなっていますから、そこから得られる情報も少なからずあるはず。もっとも、写真や図版の増加はインターネット上の通信量の増大につながるため、必ずしも歓迎すべきものとも言い切れなかったりする部分はあります。

\*

インターネットで調べられるものは少なくありませんが、多くの人が最初に考えるのは、フネそのものやマリンエンジンのことかと思えます。

安全確実な情報ソースは、やはりボートビルダー（この「ボートビルダー」を「エンジンメーカー」や「機装品メーカー」と読み替えても同様。以下同）のWEBサイトでしょう。国産にしても、輸入にしても、ほとんどのボートビルダーはWEBサイトを用意しています。

もし、調べたいものが輸入モノで、それでもいきなり海外のボートビルダーのWEBサイトへ行くのに抵抗がある



ならば、その輸入元などのWEBサイトを探しましょう。日本のボート雑誌の問い合わせ欄に記されるアドレスは輸入元や販売元ですから、むしろその方が簡単かもしれません。通常、輸入元などのWEBサイトは日本語です。

ただ、輸入元や販売元のWEBサイトには、一部詳細についての表示をビルダーのWEBサイトへのリンクとしているものもありますから、そういった場合には結局、ビルダーのWEBサイトを閲覧するのと同じことにはなりません。

\*

インターネット・マガジンといった形式で、ボート雑誌のインターネット版のようなかたちで記事を掲載しているWEBサイトも少なくありません。なかには、フネの紹介をストーリーングのビデオで行っているところもあり、そういったところでは、そのアーカイブの中か

ら特定のフネを検索し、そのフネの航走状態を動画で見ることなどもできます（要登録だったりしますが）。

また、そういったWEBサイトへ対抗する意味もあるのでしょうか、海外の有名ボート雑誌のWEBサイトには、雑誌に掲載した記事をアーカイブとして用意し、検索、閲覧できるようになっているところもあり、過去の記事や、その記事で掲載された写真、速度や燃費の計測結果などを見ることができます。

舵社のWEBサイトをはじめとした日本のボート雑誌社のWEBサイトも、もちろんありますが、残念なことに、まだ海外のものほど徹底したアーカイブ化を行っているところはありません。それでも、舵社のWEBサイトでは、舵誌とボート倶楽部誌のバックナンバーの目次を閲覧できるようにしてありますから、過去に掲載されたモデルの記事などを探す場合の参考にしていただければと思います。

\*

詳しいスペックや説明よりも、とにかくそのフネが走っているところを見たいということであれば、You Tubeなどの動画サイトで、そのフネの名前を入力して検索してみることをお勧めします。

もちろん、圧倒的に海外のモデルのほうが多いのですが、意外に国産最新モデルなどの動画もアップされていますし、エンジン音なども聞くことが可能な動画も少なくありません。

フネのユーザー自身がアップした動画などでは、実際の使い勝手なども見ることが出来るでしょう。

日本にも国内向けのボート関連ポータルサイトに類するものはありますが、海外には、ボート関連の業界ニュースに特化したものや、特定の分野のビルダーへのリンクを集めたもの、エンジンのスペック集のようなものなど、非常に多くのタイプのものがあり、その数も半端なものではありません。